

令和 2 年 国勢調査人口等基本集計結果概要

令和 2 年 10 月 1 日に実施しました国勢調査の人口等基本集計の結果が、令和 3 年 11 月 30 日に総務省統計局より公表されました。

日本の人口、栃木県の人口が減少する中、下野市の人口は、前回の調査（平成 27 年）より 76 人（0.1%）増加の 59,507 人、世帯数は 2,103 世帯（9.8%）増加の 23,497 世帯となりました。

市町別では、県内 25 市町のうち人口が増加した市町は宇都宮市と下野市のみで、増加率では本市が上回っています。また、世帯数も本市が県内で最も高い増加率となりました。

【要因】

住民基本台帳における人口推移を地区別に見ると、南河内地区では仁良川地区土地区画整理事業地内の世帯数・人口ともに市内トップの増加数であります。それ以外の地域、特に祇園、緑地区の人口減少が著しい状況であり、グリーンタウン開発当初の転入者の高齢化及び若い世代の独立による東京圏等への流出等が要因と推測されます。

石橋地区では、文教通り沿いの石橋下古山地区土地区画整理事業地内、国分寺地区では国分寺小、中学校周辺の人口増が顕著であり、いずれも土地区画整理地内の農地が宅地化されていると考えられます。

【今後の展開】

今回の調査では、本市の人口は微増となりましたが、人口減少の自治体は全国的に広がりを見せ、東京圏への人口流出が依然として続いていることから、本市としましても、年々高まる高齢化率や、ここで育った子どもたちが進学や就職のために転出し、戻らない現状を受け止め、魅力ある企業の誘致による雇用環境の充実、さらには空き家対策に重点を置く必要があります。

今後も本市の住みよさを住んでいる方は勿論、市外の方々にも認識していただけるよう、現行の「第二次下野市総合計画」に掲げる「市民の幸福感の向上」と「人や企業に選ばれる自治体」を目指し、各種事業に鋭意取り組んでまいります。

下野市の概要

単位：人・世帯・ポイント

		令和 2 年	平成 27 年	平成 27 年と 令和 2 年の差	増減率
下野市人口		59,507	59,431	76	0.1%
地区別人口	南河内地区	19,563	19,764	▲201	▲1.0%
	石橋地区	21,202	21,024	178	0.8%
	国分寺地区	18,742	18,643	99	0.5%
年齢別割合	15 歳未満	12.4%	13.9%	▲1.5	-
	15～64 歳未満	61.4%	63.6%	▲2.2	-
	65 歳以上	26.3%	22.5%	3.8	-
世帯		23,497	21,394	2,103	9.8%

国の人口・世帯数

単位：人・世帯

	令和2年	平成27年	増減数	増減率
人口	126,146,099	127,094,745	▲948,646	▲0.7%
世帯	55,830,154	53,448,685	2,381,469	4.5%

栃木県の人口・世帯数

単位：人・世帯

	令和2年	平成27年	増減数	増減率
人口	1,933,146	1,974,255	▲41,109	▲2.1%
世帯	796,923	763,097	33,826	4.4%

【参考】

人口が増加した市町（県内）

順位	市町名	増加人口数（人）
1	宇都宮市	163
2	下野市	76

人口増加率の高い市町（県内）

順位	市町名	増加率（%）
1	下野市	0.1
2	宇都宮市	0.0

15歳未満人口の割合の高い市町

順位	市町名	割合（%）
1	さくら市	13.6
2	上三川町	13.4
3	真岡市	13.2
4	芳賀町	13.0
5	宇都宮市	13.0

15歳～64歳人口の割合の高い市町

順位	市町名	割合（%）
1	上三川町	62.6
2	高根沢町	62.3
3	小山市	61.7
4	下野市	61.4
5	宇都宮市	61.2

65歳以上人口の割合の低い市町

順位	市町名	割合（%）
1	上三川町	24.0
2	小山市	25.5
3	高根沢町	25.7
4	宇都宮市	25.9
5	下野市	26.3

※15歳未満人口及び15歳から64歳までの生産年齢人口の割合が高い市町は、宇都宮市の工業団地に隣接した地域でベッドタウン化や、若い就業者が多い企業の立地が影響していると想定されます。

高齢化率は、県内全市町で上昇していますが、本市は5番目に低い割合であります。

インターネット回答率

栃木県平均 35.9%

下野市 46.0%（県内1位）